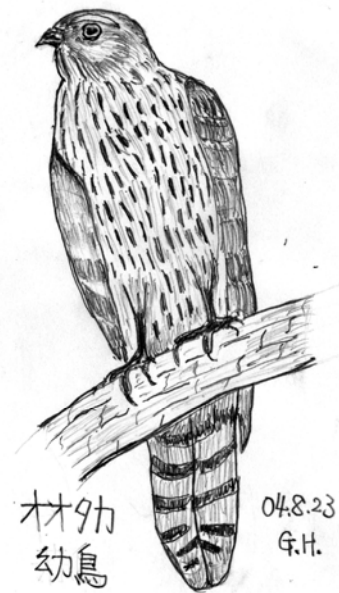


# 万博公園探鳥会 04年の記録

(04年1月~12月)  
2005年1月25日

- 万博探鳥会04年度実績
- 04年月別観察種数と  
参加者数
- 04年探鳥会で良く見た鳥
- 04年観察回数
- 04年観察個体数
- 04年探鳥会メモ
- 01年~04年の推移



万博公園のオオタカ

主催 吹田野鳥の会 / [(財)日本野鳥の会大阪支部]

協力(独)日本万国博覧会記念機構

## 万博探鳥会 04 年実績

定例開催日 毎月第2土曜日

9:30 自然文化園中央口集合  
15:00 頃日本庭園東側で終了解散

探鳥会回数 12回

基本的には月1回。

但し11月のみバードウォッチング・ウィーク探鳥会(11/3)を実施のため月2回開催、また10月探鳥会は台風襲来で中止したため12回となった。

探鳥会で観察した鳥 59種

毎回の観察種 20~40種

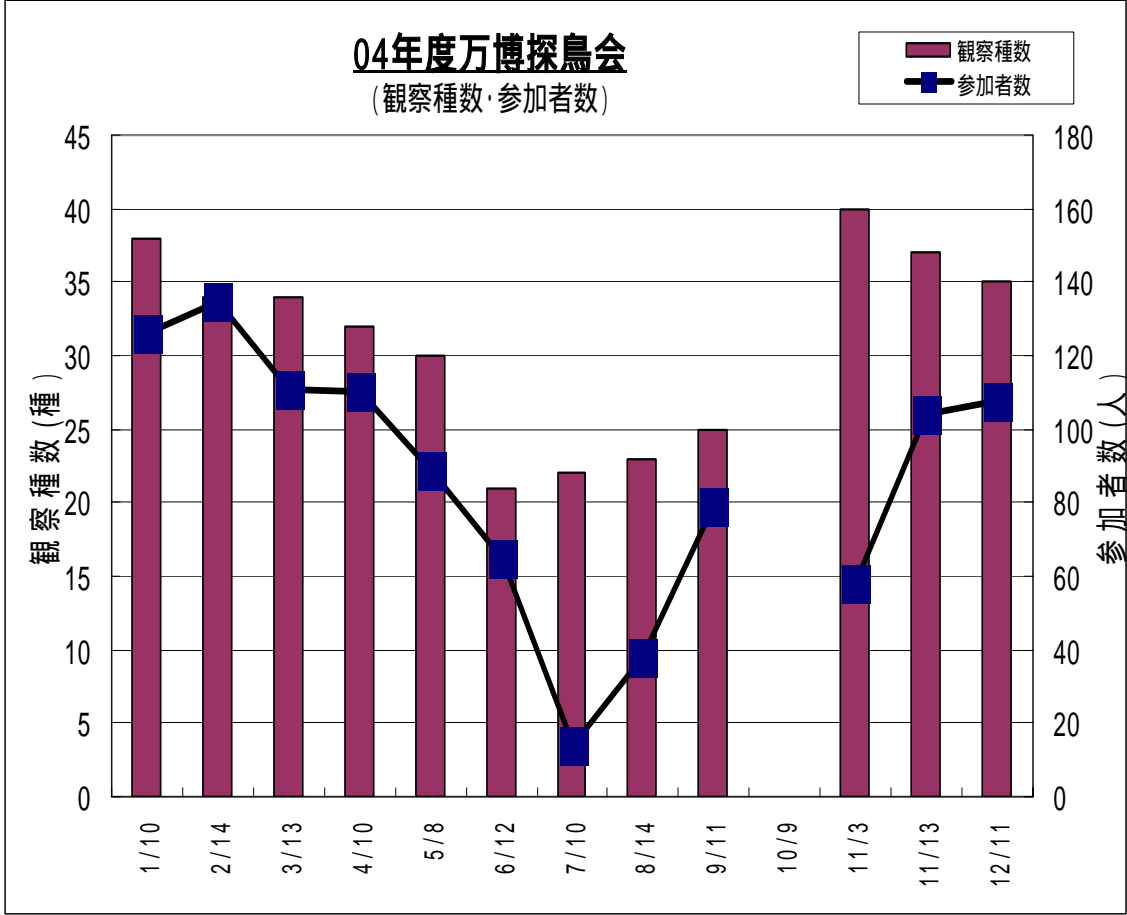
年平均 31種/回

探鳥会参加者数 1037人

毎回の参加者 14人~135人

年平均 86人/回

# 04年月別観察種数と参加者数



(10月は台風襲来により中止)

(観察種数) スズメ・ハシブトガラスなどの留鳥を除き、月毎、季節毎に観察できる鳥が異なる。

(冬40種、春・秋30種、夏20種)

しかし、冬40種観察できるのに、1年12回の観察種数が59種に止まるのは、春(4~5月)・秋(9~10月)の渡りの季節に観察できる鳥があまり多くないことを示している。

(参加者数) 万博探鳥会の特徴は、毎月千里タイムズに掲載しているなどから、参加者数が多いことにある。

## 04年探鳥会で良くみた鳥

毎回(全12回とも)観察できた鳥、13種

カイツブリ	カワウ	マガモ	カルガモ	キジバト
ヒヨドリ	セグロセキレイ	エナガ	シジュウカラ	メジロ
スズメ	ハシブトガラス	ハシボソガラス		

( 印: 01~04年の毎回、全51回とも観察できた鳥、9種)

それに続く鳥

11回 / 12回	カワラヒワ	ハクセキレイ	コゲラ	アオサギ
10回 / 12回	イカル	カワセミ		

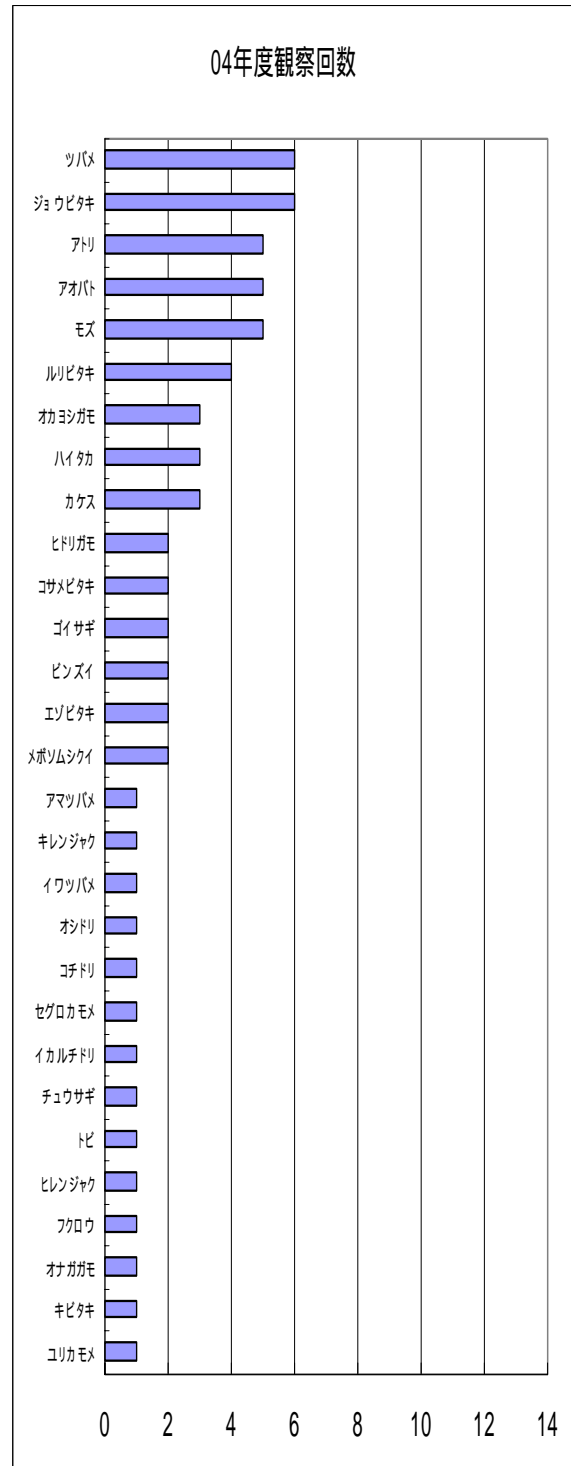
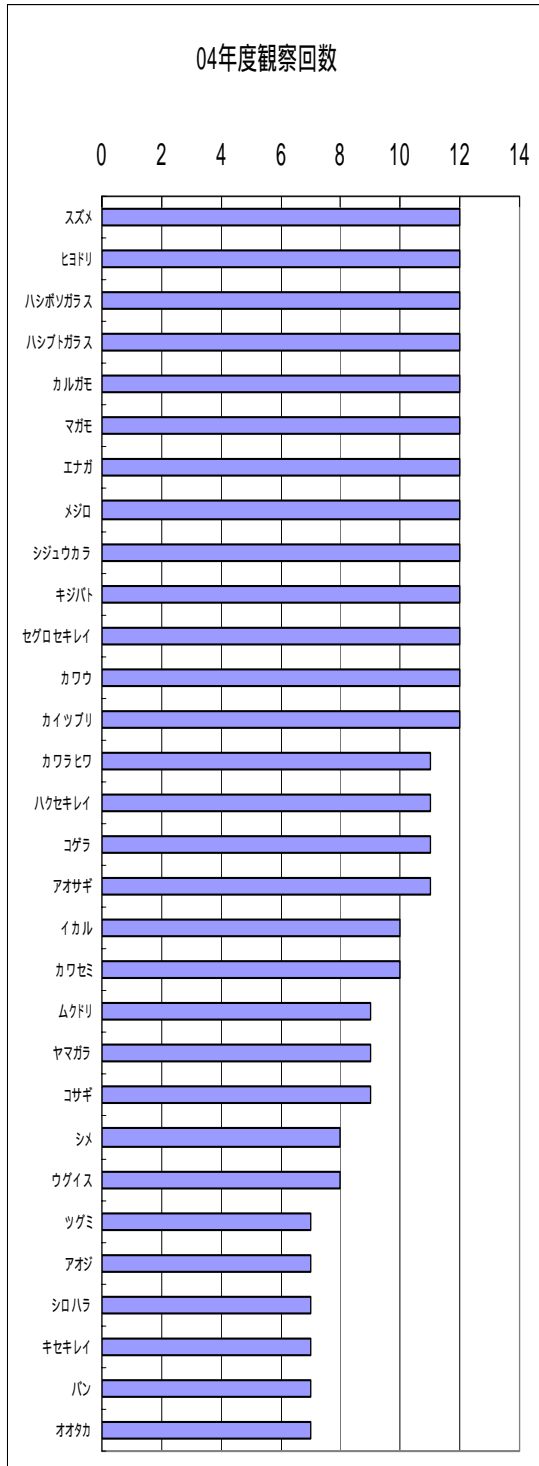
(観察個体数の多かった鳥)

	回数	個体数	1回当り
スズメ	12	462	39
ヒヨドリ	12	353	29
カワラヒワ	11	238	22
ハシボソガラス	12	215	18
ムクドリ	9	213	24
ハシブトガラス	12	169	14
カルガモ	12	135	11
アトリ	5	105	21
ツグミ	7	102	15
マガモ	12	101	8

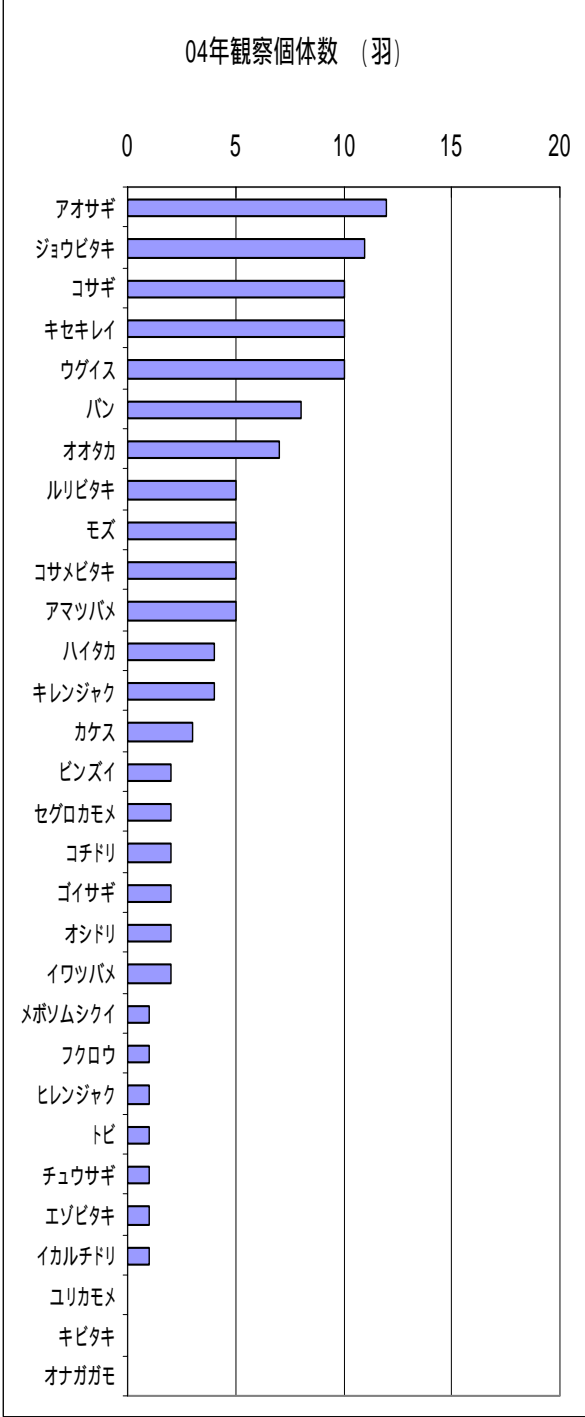
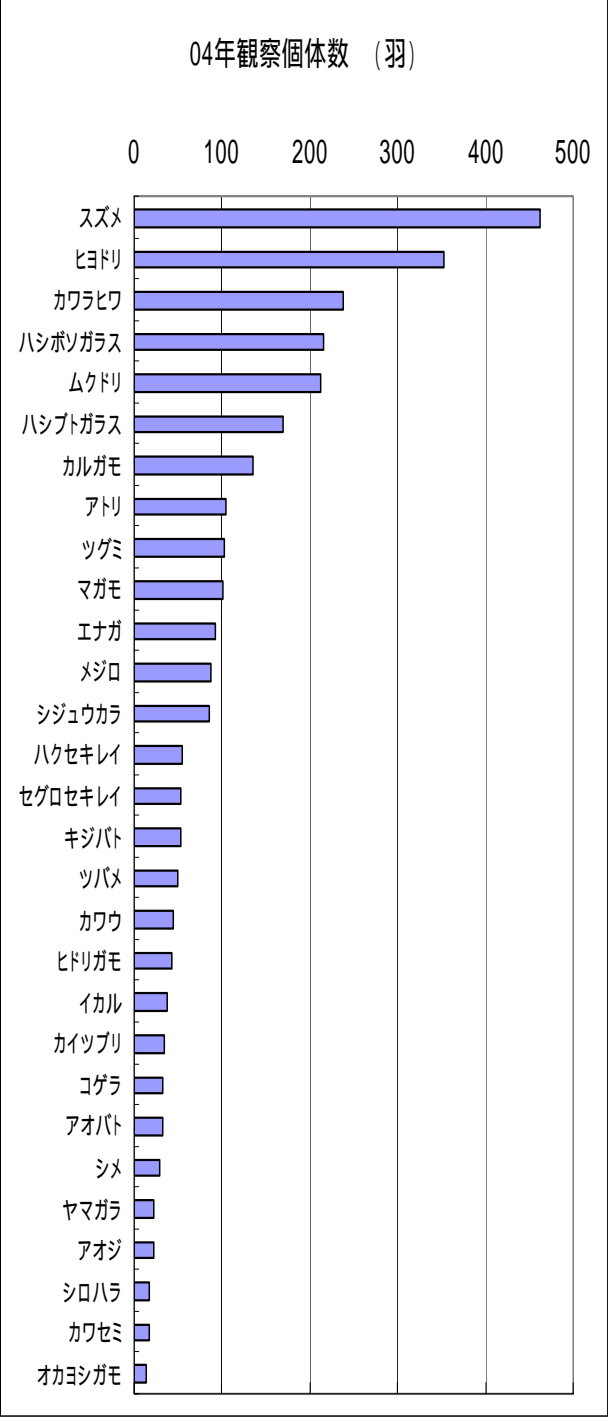
(万博公園にいた全数でなく、たまたま観察した数)

# 04年探鳥会での観察回数

(探鳥会開催回数は12回)



# 04年探鳥会での観察個体数



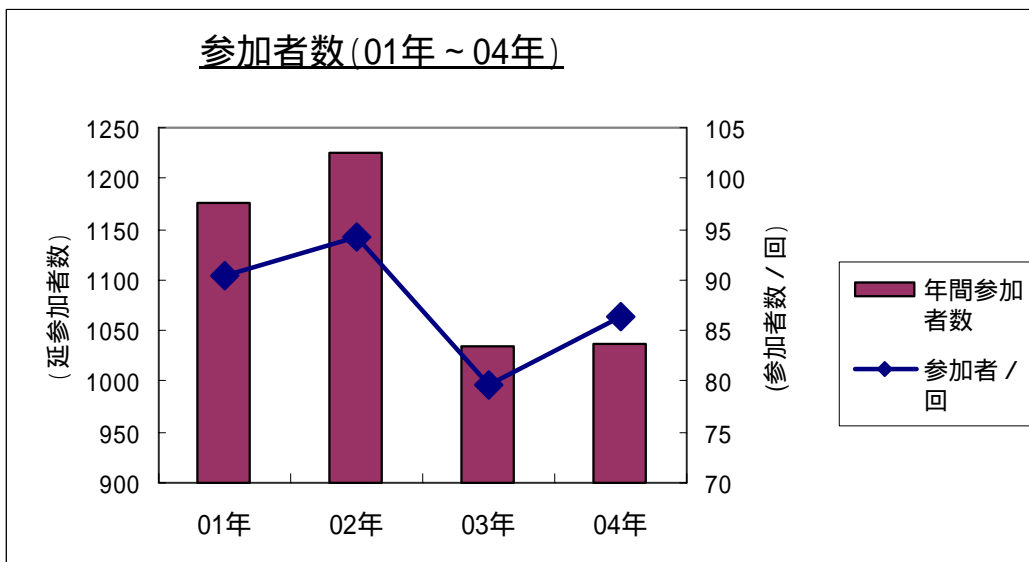
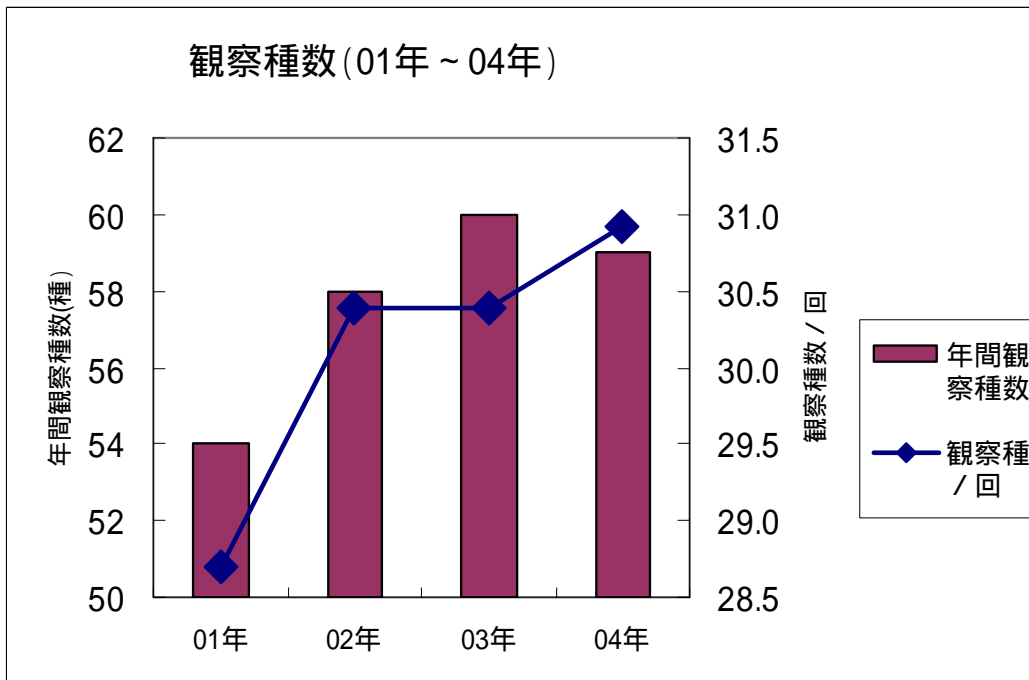
尚、12回の探鳥会のうち、2回は清掃探鳥会などでカウントしていないため、10回のカウント数。

その結果、ユリカモメ～オナガガモは0となっている。

# 04 年探鳥会メモ

月/日	天候	観察種数	参加者数	コメント
1/10	曇後晴	38	126	( 1 月 ) 99年以來2回目のフクロウ、94年以來のチュウサギなど久しぶりの鳥、アトリ・ツグミなど冬鳥の群などを観察。( 2 月 ) 万博探鳥会は1985年2月開始以來、満19年となり記念写真を撮った。
2/14	晴	34	135	
3/13	晴	34	111	( 3 月 ) 頭を黒く染めたアトリ、鉛色の口紅をつけたシメなど鳥の世界は春一色、万博初記録となるセグロカモメが飛んだ。( 4 月 ) 期待していた春の渡り鳥は全く姿を見せなかったが、キレンジャクがケヤキの新芽(花芽)を食べていた。
4/10	晴	32	110	
5/8	晴	30	89	( 5 月 ) 日本庭園の高台でアオバト13羽、続いて万博初記録2種のアマツバメとイワツバメが飛び交うなど、最後に盛り上がった。( 6 月 ) 万博としては数年ぶりのカルガモの雛、親とほぼ同じ大きさに育っていた。
6/12	曇後雨	21	65	
7/10	雨後曇	22	14	( 7 月 ) 雨の中参加者が10名を越えたので清掃探鳥会を実施。毎日掃除をする人がいるにもかかわらず、林の所々に捨てられたビニール袋・缶類などが落ちていた。( 8 月 ) お盆でオリンピック開会式の翌日に参加された人へのプレゼントはオオタカの若鳥。数mの至近距離で全く動かず、全員でゆっくり観察できた。
8/14	晴	23	38	
9/11	曇後晴	25	79	( 9 月 ) 秋の渡り鳥はコサメビタキ5羽、エゾビタキ1羽。日本庭園はず池で抱卵中のカイツブリ、幼鳥が巣に上がり巣の修復を手伝っていた。尚、8月探鳥会で観察したオオタカ幼鳥は1週間後死んだとのこと、非常に残念である。( 1 0 月 ) 台風襲来のため中止。
10/9				
11/3	晴	40	58	( 1 1 / 3 ) エゾビタキ・コサメビタキなど秋の渡り鳥の名残り、アトリ・シメなど冬鳥の走り、この季節としては久しぶりに40種の鳥を観察。( 1 1 / 1 3 ) 最後にアオバト・シメ、カケスなどがでて、盛り上がった。( 1 2 月 ) 鳥の種数・個体数とも少なかったが、カモは65羽(ヒドリガモ・オカヨシガモ・マガモ・カルガモの4種)と多かった。
11/13	晴	37	104	
12/11	晴	35	108	

## 01年～04年の推移



最近4年間の実績を比較した。01年・02年は探鳥会参加者が多かったものの、観察種が04年に比し少なかったことがわかる。